

■9月27日

首都圏空港の航空需要、2022年には発着上限超

首都圏の羽田、成田両空港で見込まれる航空需要が、早ければ2022年度には現在計画中の年間発着枠の上限を超える見通した。アジアなど海外の高い経済成長を背景に、主に国際線の需要が大幅に増える見込まれるため。26日開かれた交通政策審議会航空分科会の部会で、国土交通省航空局が予測を示した。国交省は羽田、成田両空港で今後容量不足が見込まれることや、20年の夏季五輪東京開催などを踏まえ、10月から両空港の発着枠を拡大する方向で具体的な検討を始める方針。

両空港の年間発着枠は現在68万回。14年度中に約75万回まで増やすことが決まっている。

今回の予測結果は、32年度までの日本の実質GDP成長率を3パターンに分け、過去の航空需要の変動や人口変化などをもとにまとめた。それによると、羽田、成田両空港の航空需要は増加傾向をたどり、特に国際線の旅客数は12～22年度の10年間で約6～8割増える見込み。

このため、早ければ22年度には、両空港の国内線と国際線を合わせた発着回数は最大約76万回と、現在計画中の年間発着枠である約75万回から貨物便の枠(約4万回)を除いた71万回を超えるとの見通しを示した。

(産経biz)9/27

<http://www.sankeibiz.jp/macro/news/130927/mca1309270611005-n1.htm> (->

<http://www.sankeibiz.jp/macro/news/130927/mca1309270611005-n1.htm>)

(日刊航空)9/27

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

国交省、首都圏空港の課題、成田空港、アジア・ハブ競争力低下

国交省は26日の第9回・航空分科会で、首都圏空港をめぐる状況や課題を整理した。アジアでは、既存空港の拡張や新空港の建設が相次いでおり、ハブ空港競争が激化しており、近年は成田空港の相対的な地位が低下し、2012年実績でアジア主要5空港(国際線旅客数TOP5)中最下位に沈んだことを紹介した。特に、成田空港の直接的なライバルとされる仁川空港に対しては、就航都市数、総旅客数、乗り継ぎ旅客数など多くの分野で抜かれている。

また、首都圏の成田・羽田両空港から仁川空港乗り継ぎで海外へ出かける旅客が年間60万人、加えて、成田空港からの出国者による仁川経由旅行者の中で最も多い目的地はホノルル(年間2.4万人)という統計も明らかにした。

(日刊航空)9/27

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

仁川空港、第2ターミナル起工式、2018冬季オリンピック前に完成目指す

仁川国際空港第2ターミナルの起工式が26日、開催された。2018年の平昌冬季五輪前の17年末の完成を目指しており、完成すれば年間の旅客処理能力は現在の4400万人から6200万人に増える。

韓国国土交通省によると、旅客需要は毎年6%以上増えており、2017年ごろに旅客ターミナル施設や駐機スポットが飽和状態に達する見通しだという。

(時事ドットコム)9/26

[http://www.jiji.com/jc/c?g=int\\_30&k=2013092600687](http://www.jiji.com/jc/c?g=int_30&k=2013092600687) (-> [http://www.jiji.com/jc/c?g=int\\_30&k=2013092600687](http://www.jiji.com/jc/c?g=int_30&k=2013092600687))

全日空、8月、旅客輸送実績、国際線0.2%増

全日空は26日、8月のグループ旅客輸送実績を明らかにした。これによると、国際線旅客数は62万9,752人で同0.2%

増加、搭乗率は83.3%と前年比0.5ポイント低下した。

中国線は、日本発は前年比23%減と低迷が続くものの、中国発需要は北米などの乗り継ぎも含めて同38%増加している。中国線全体では、0.7%減まで回復した。

一方、国内線旅客数は月間395万3,806人、前年比3.2%増加した。利用率は68.8%で、前年同月よりも0.5ポイント上昇した。昨年よりも台風による影響が少なく、好調だったという。

(ANAプレスリリース)9/27

[http://www.ana.co.jp/pr/13\\_0709/pdf/130926.pdf](http://www.ana.co.jp/pr/13_0709/pdf/130926.pdf) (-> [http://www.ana.co.jp/pr/13\\_0709/pdf/130926.pdf](http://www.ana.co.jp/pr/13_0709/pdf/130926.pdf))

(日刊航空)9/27

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

## (2)国際線方面別旅客輸送実績

2013年8月

	旅客数(人)	前年比	利用率	座席キロ	前年比	旅客キロ	前年比
北米方面/メキシコ	131,418	112.9	82.3	1,400,946	121.2	1,152,619	115.8
ヨーロッパ方面	57,377	100.8	83.1	655,148	97.1	544,453	100.8
アジア方面	440,957	96.9	84.4	1,425,950	103.1	1,203,863	103.9
合計	629,752	100.2	83.3	3,482,044	108.3	2,900,935	107.7

\* ANAプレスリリースより

国交省、羽田・成田—首都圏空港、予想旅客数、今後10年で23-38%増

国交省は26日、同日開いた航空関係の有識者会議で、羽田と成田の首都圏空港の年間旅客数が2022年度に1億1400万～1億2800万人となり、今後10年間で23～38%増えるとの予測を公表した。海外の経済成長で国際線の需要が伸び、航空便の発着回数は20年代に発着枠の上限を超えるとした。国交省は需要予測を踏まえ、10月から発着枠の一段の拡充に向けた具体策の検討に入る。

首都圏空港の22年度の旅客数は、国内線が「弱気シナリオ」だと2%減の5700万人、「強気シナリオ」だと12%増の6500万人と予測した。国際線は弱気シナリオで60%増の5600万人、強気シナリオで80%増の6300万人と見積もった。32年度にかけても国際線を中心に旅客数は伸び、発着枠は年7万～23万回不足するとした。

(日経)9/26

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASGC2600X\\_W3A920C1EE8000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASGC2600X_W3A920C1EE8000/) (->

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASGC2600X\\_W3A920C1EE8000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASGC2600X_W3A920C1EE8000/))

成田空港、開港以来続く検問廃止を発表、2015年3月目途

成田国際空港会社(NAA)は26日、1978年の開港以来続けてきた空港利用客の検問を、2015年3月までに全て廃止すると発表した。現在、空港駅や道路など6カ所で警備員が身分証確認と荷物検査をしているが、「ノンストップゲート化」をめざし準備を進め、警備態勢を見直した。

NAAによると、駅や旅客ターミナル内の約70カ所に、人の顔を識別する機能が付いたカメラ約150台を13年度末までに設置。爆発物探知犬の導入も検討する。道路にもカメラを設置し、車両の入場記録を管理するシステムを14年秋までに整備するとしている。

(日経)9/26

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASFK2600Q\\_W3A920C1000000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASFK2600Q_W3A920C1000000/) (->

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASFK2600Q\\_W3A920C1000000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASFK2600Q_W3A920C1000000/))

(読売新聞)9/26

<http://www.yomiuri.co.jp/national/news/20130926-OYT1T00475.htm?from=ylist> (->

<http://www.yomiuri.co.jp/national/news/20130926-OYT1T00475.htm?from=ylist>)

(NAAプレスリリース)9/26

<http://www.naa.jp/ip/20130926-3.pdf> (-> <http://www.naa.jp/ip/20130926-3.pdf>)

成田空港、8月運用状況、発着回数、旅客数共に過去最高

成田国際空港会社(NAA)は26日、8月の空港運用状況を発表した。

発着回数は、国際線(15,790回)、国内線(4,230回)ともに過去最高を記録し、開港以来初めて2万回を超えた。

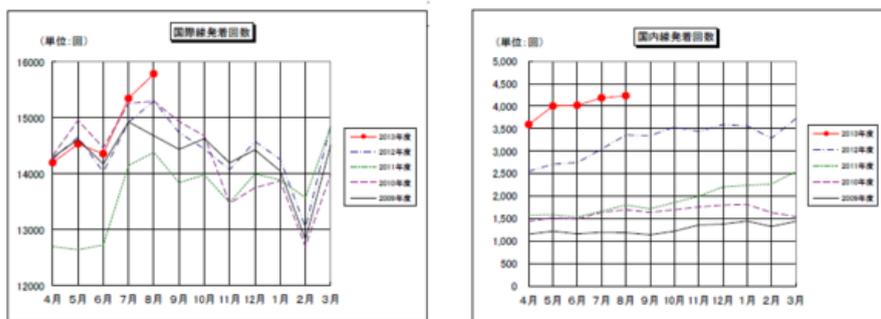
また、本邦LCC2社(エアアジア・ジャパン、ジェットスター・ジャパン)をはじめとした新規就航や増便及び7月からの新規就航などにより、国際線は5年ぶりに過去最高となり、国内線は4ヶ月連続で過去最高を更新した。

航空旅客数についても、上記と同様の要因により、過去最高の3,547,114人となった。

(NAA プレスリリース)9/26

<http://www.naa.jp/ip/20130926-3.pdf> (-> <http://www.naa.jp/ip/20130926-3.pdf>)

\* NAAプレスリリースより (発着回数)



復興航空、成田—台北線就航、ビジネス旅客取り込みを狙う

台湾の復興航空(トランスアジア航空)は26日、成田—台北線を開設した。使用機材はエアバスA320(ビジネスクラス12席、エコノミークラス138席、計150席)で、1日1往復を運航する。

同社は、2012年6月、日本への初の定期便として関空—台北線を開設し、現在は関空と成田に加えて那覇と札幌、函館、旭川、釧路の7都市に定期便を就航している。

Aviation Wireによると、ヴァインセント・M・リン(林明昇)会長は、日本路線のロードファクターは平均80%台だとし、成田—台北線は「満席を目指す」と意気込みを語った。また、ピーチ・アビエーション(APJ)など、台北へ就航する日本の航空会社が増加傾向にあることについて、「特別なサービスを提供したい」と述べ、激化する競争への準備を進めている考えを示したという。

台湾の航空会社の成田参入は中華航空、エバー航空に次いで3社目。3月末、航空会社が路線や便数を原則自由に決められる航空自由化(オープンスカイ)が成田にも適用されたため、就航が可能となった。

(時事ドットコム)9/26

[http://www.jiji.com/jc/c?g=eco\\_30&k=2013092600042](http://www.jiji.com/jc/c?g=eco_30&k=2013092600042) (-> [http://www.jiji.com/jc/c?g=eco\\_30&k=2013092600042](http://www.jiji.com/jc/c?g=eco_30&k=2013092600042))

(Aviation Wire)9/26

<http://www.aviationwire.jp/archives/26388> (-> <http://www.aviationwire.jp/archives/26388>)

エアバス社、中国新興航空会社2社、A320—43機契約

エアバスは中国の新興航空会社2社から計42億ドル(約4100億円)の契約を獲得したと発表した。

中国青島を本拠地とする青島航空は「A320」23機(5機のA320ceoと18機のA320neo)を購入することで合意。エアバス

の価格表に基づく22億6000万ドル相当の契約となる。

また、中国東部にある浙江省杭州を本拠地とする浙江長龍航空は「A320」20機（11機のA320ceoと9機のA320neo）を買い入れることで基本合意した。総額は19億1000万ドル。航空会社は通常、航空機購入に当たりメーカー側から値引きを受ける。

レスポンスによると、浙江長龍航空は2013年内に、ビジネスを開始する計画で、運航は杭州から成都市や重慶、深セン市や西安といった中国国内の規模の大きな空港に向かう国内線ルートから開始される。また、国際線の運航を、3年から5年の間に開始するという予定だという。

(bloomberg)9/26

<http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MTPJXL6K50XX01.html> (-> <http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MTPJXL6K50XX01.html>)

(レスポンス)9/26

<http://response.jp/article/2013/09/26/207174.html> (-> <http://response.jp/article/2013/09/26/207174.html>)

<http://response.jp/article/2013/09/26/207167.html> (-> <http://response.jp/article/2013/09/26/207167.html>)

タイ国際航空、タイスマイルを完全子会社化

(バンコク週報によると)

チャットチャート運輸相は9月24日、タイ国際航空 (THAI) の一部として運航されている「タイスマイル」について、議会在がTHAIの完全所有子会社とすることで承認し、設立が可能であることを明かした。

完全子会社化に関連してインラック首相は、「両社ともそれぞれ別の市場をターゲットとし個別経営を守ること。タイスマイルの費用をTHAIが負担してはならない。また、タイスマイルは今後、他の格安航空会社をライバルとして競合していくべき」と強調した。

チャットチャート運輸相も、1キロメートル毎のコストや目標搭乗率、市場ターゲットなどを明確にするようタイスマイルに指示する方針だ。

関係筋によれば、タイスマイルは国内線のほか片道4時間以内の国際線も運航し、乗客の30%がTHAIの乗継便として利用する見込みだという。

料金については、エコミークラスで国際線がTHAIより約20%安くなるものの、国内線はTHAIと同額になるとみられている。

また、完全子会社化にあたり一部THAIの職員がタイスマイルに異動し、初年度の従業員数は537名、2017年には892名にまで拡大する予定だ。

(バンコク週報)9/26

[http://www.bangkokshuho.com/article\\_detail.php?id=2710](http://www.bangkokshuho.com/article_detail.php?id=2710) (-> [http://www.bangkokshuho.com/article\\_detail.php?id=2710](http://www.bangkokshuho.com/article_detail.php?id=2710))

中国、旅客機需要、2032年、4兆元規模に拡大

(serchinaによると)

中国商用飛機有限責任公司是先般、中国民間航空分野における幹線用大型旅客機と支線用小型旅客機の需要が、向こう20年に5300機以上となり、中国の旅客機市場規模は4兆元近くに達するとの見通しを示した。26日付中国証券報が伝えた。

25日に開催された第15回北京国際航空展覧会で発表された中国商用飛機有限責任公司の中国民間航空機市場予測レポートで、政策の後押しを受け、向こう20年に中国民間航空産業の急成長が続き、国内市場の幹線用大型旅客機と支線用小型旅客機の需要が合わせて5300機以上となり、国内民間旅客機市場の規模は4兆元近くに達すると予測された。

中国商用飛機有限責任公司是、2032年までに国内旅客機の総数が2012年の1969機から6494機に増加し、世界旅客機総数に占める割合が今の11%から17%に拡大すると見ている。

(serchina)9/26

[http://news.searchina.ne.jp/disp.cgi?v=2013&d=0926&f=business\\_0926\\_091.shtml](http://news.searchina.ne.jp/disp.cgi?v=2013&d=0926&f=business_0926_091.shtml) (->

[http://news.searchina.ne.jp/disp.cgi?v=2013&d=0926&f=business\\_0926\\_091.shtml](http://news.searchina.ne.jp/disp.cgi?v=2013&d=0926&f=business_0926_091.shtml))

ベトジェットエア(LCC)、エアバスA320ファミリー、100機の覚書締結

ベトジェットエアは、最高92機のエアバスA320ファミリーの了解覚書(MoU)にサインし、さらに第三者である賃貸業者から8機の航空機をリースすることを発表した。

契約の内訳は、42機のA320neoと14機のA320ceo、6機のA321ceoに加え、さらに30機のA320ファミリーの購入権利で92機分。加えて、ベトジェットエアはあわせて航空機リース会社から8機をリースする契約もあわせて結んだ。

ベトジェットエアは2011年12月に初フライトをして以降、急速に拡大を続け、現在は9機のA320を保有し、11地点に就航。2014年にはタイでタイ・ベトジェットエアの運航開始も計画している。

(エアバス プレスリリース)9/25

<http://www.airbus.com/newsevents/news-events-single/detail/vietjetair-to-acquire-up-to-100-new-a320-family-aircraft/> (-> <http://www.airbus.com/newsevents/news-events-single/detail/vietjetair-to-acquire-up-to-100-new-a320-family-aircraft/>)

(レスポンス)9/26

<http://response.jp/article/2013/09/26/207165.html> (-> <http://response.jp/article/2013/09/26/207165.html>)

(Flyteam)9/26

<http://flyteam.jp/news/article/26829> (-> <http://flyteam.jp/news/article/26829>)